

平安京右京三条四坊十四町・四条四坊十六町跡

2003年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京三条四坊十四町・四条四坊十六町跡

2003年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しております。また、平安京遷都以来今日に至るまで都市として永々と生活が営まれてきており、各時代の生活跡が連綿と重なり合っています。都であるゆえに、そこから発見されるその一つ一つは、日本の歴史を語るうえで欠くことのできないものとなっています。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした遺跡の発掘調査を通して京都の歴史の解明に取り組んでおります。その成果を市民の皆様幅広く公開し活用いただけるよう努めていくことが研究所の責務と考えております。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、出土遺物の小・中学校や公的施設での貸出展示、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところであります。

さて、当研究所では従来各年度毎で報告してまいりました「京都市埋蔵文化財調査概要」を改め、平成13年度調査分より各調査箇所毎に1冊の報告書として発刊しております。平成14年度の第3冊目として、このたび葛野大路道路改築事業に伴います平安京跡の発掘調査の成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援をたまわりました関係者各位に厚くお礼ならびに感謝を申し上げる次第です。

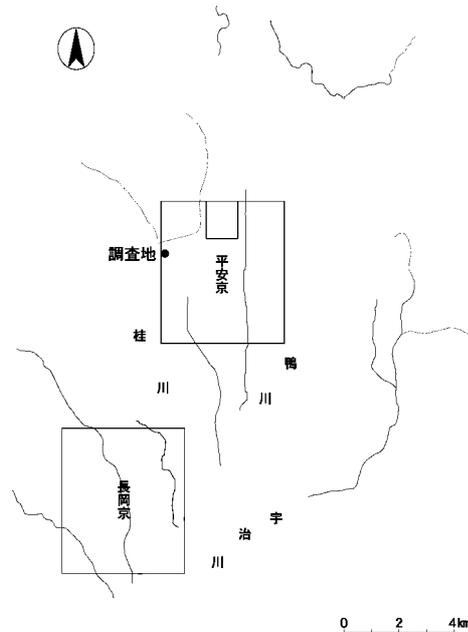
平成15年5月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 川 上 貢

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京右京三条四坊十四町・四条四坊十六町跡
- 2 調査地点所在地 京都市右京区山ノ内西裏町・五反田町他地内
- 3 委託者及び承諾者 京都市 代表者 京都市長 梶本龍雄
- 4 調査期間 2002年6月25日～2002年11月5日
- 5 調査面積 1区：80㎡ 2・3区：750㎡
- 6 調査担当職員 伊藤 潔・近藤章子
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「山ノ内」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 日本測地系（改正前）平面直角座標系（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度（座標および標高は、京都市遺跡測量基準点を使用した）
- 10 遺構番号 調査区ごとに通し番号を付し、遺構種類を前に付けた。
- 11 遺物番号 挿図の土器類・瓦類・その他の遺物の順に通し番号を付した。
- 12 掲載写真 村井伸也・幸明綾子・担当調査員
- 13 作成担当職員 伊藤 潔・近藤章子

（調査地点図）



目 次

1 . 調査経過	1
2 . 周辺の調査	1
3 . 遺 構	5
(1) 1 区	5
(2) 2 ・ 3 区	5
4 . 遺 物	7
(1) 土器類	7
(2) 瓦 類	9
(3) その他の遺物	9
5 . ま と め	10

図 版 目 次

図版 1	遺構	1 区遺構実測図 (1 : 100)
図版 2	遺構	2 ・ 3 区第 1 面遺構平面図 (1 : 250)
図版 3	遺構	2 ・ 3 区第 2 - 1 面遺構平面図 (1 : 250)
図版 4	遺構	2 ・ 3 区第 2 - 2 面遺構平面図 (1 : 250)
図版 5	遺構	2 ・ 3 区第 3 面遺構平面図 (1 : 250)
図版 6	遺構	1 1 区調査前全景 2 2 ・ 3 区調査前全景
図版 7	遺構	1 1 区調査風景 2 3 区調査風景
図版 8	遺構	1 1 区第 1 面全景 (南から) 2 1 区第 2 面全景 (南から)
図版 9	遺構	1 2 区第 2 - 1 面全景 (北から) 2 3 区第 2 - 1 面全景 (北から)
図版 10	遺構	1 2 区第 2 - 2 面全景 (北から) 2 3 区第 2 - 2 面全景 (北から)
図版 11	遺構	1 2 区第 3 面全景 (北から) 2 3 区第 3 面全景 (北から)

挿 図 目 次

図 1	調査位置図および周辺調査（1：5,000）	2
図 2	3区SD6・9交差部（北西から）	5
図 3	3区北壁断面図（1：100）	6
図 4	土器実測図（1：4）	8
図 5	軒瓦拓影・実測図（1：4）	9
図 6	2区出土トチン実測図（1：4）	9
図 7	2区出土トチン	9
図 8	3区出土石鏃	9

表 目 次

表 1	周辺の調査一覧表	3
表 2	遺構概要表	6
表 3	遺物概要表	10

平安京右京三条四坊十四町・四条四坊十六町跡

1 . 調査経過

調査地は、京都市右京区山ノ内西裏町に位置する三条通と葛野大路交差部の南東角地（1区）と、山ノ内五反田町に位置する京都市水道局配水事務所駐車場内（2区・3区）の2箇所である。この調査は、1988年から継続的に行われている葛野大路拡幅工事に伴うもので、今回で9次調査となる。

調査区は2・3区が平安京右京三条四坊十四町、1区が四条四坊十六町に該当する。『拾介抄』西京図によれば、三条四坊十四町は左衛門府の厨町である左衛門町、四条四坊十六町は、大宰府の出先機関の可能性があるとされる大貳町にあたる。

1区の調査は、7次調査で無差小路西側溝や建物跡を検出した調査区に北接する。また、2・3区は8次調査での試掘調査の結果、中世の遺物包含層や溝状遺構、平安時代と考えられる柱穴を確認し、建物跡などの検出が期待された。なお、2・3区は京都市水道局配水事務所駐車場内であり、残土置き場の関係で調査区を二分した。まず南側に調査区2区を設定し、その北側を残土置き場とした。これが終了した後に反転して北側に3区を設定した。調査は2002年6月25日より調査に伴う準備・付帯工事から開始し、11月5日にすべての調査を終了した。

2 . 周辺の調査

当工事に伴う調査は、1988年の試掘調査から開始し、御池通から太子道間で1～3次調査、四条通から御池通間で4次調査から今回の9次調査を実施した。以下、回数ごとに主な成果を述べる。

1次調査 古墳時代の遺構は1・4～6区で検出した。北東から南西方向の自然流路を2条以上検出しており、土器の遺存状態が良好なことから、付近に集落の存在をうかがわせる。平安時代の遺構は4区で二条大路路面、2区で押小路両側溝を検出している。室町時代から江戸時代の遺構は、耕作に伴う小溝を各調査区で検出した¹⁾。

2次調査 7区で古墳時代の土壌状遺構の一部分、3～5・7区で平安時代以前の動物の足跡と考えられる窪み群、6区で平安時代の冷泉小路北側溝およびそれに関連する東西方向の柱穴列を検出した。また、平安時代末期から鎌倉時代の東西溝を、平安時代の冷泉小路北側溝から南へ0.7mの位置で検出している。その溝に合流する南北溝も検出した。室町時代から江戸時代の東西・南北方向の素掘りの耕作溝は、重複した状態で多数検出され、各調査区で認められた²⁾。

3次調査 この調査は2次調査の調査区を拡げた状態で行われた。遺構に伴わないが、弥生時代から古墳時代の土器が微量ながら出土している。平安時代前期の遺構は、整地層と冷泉小路北

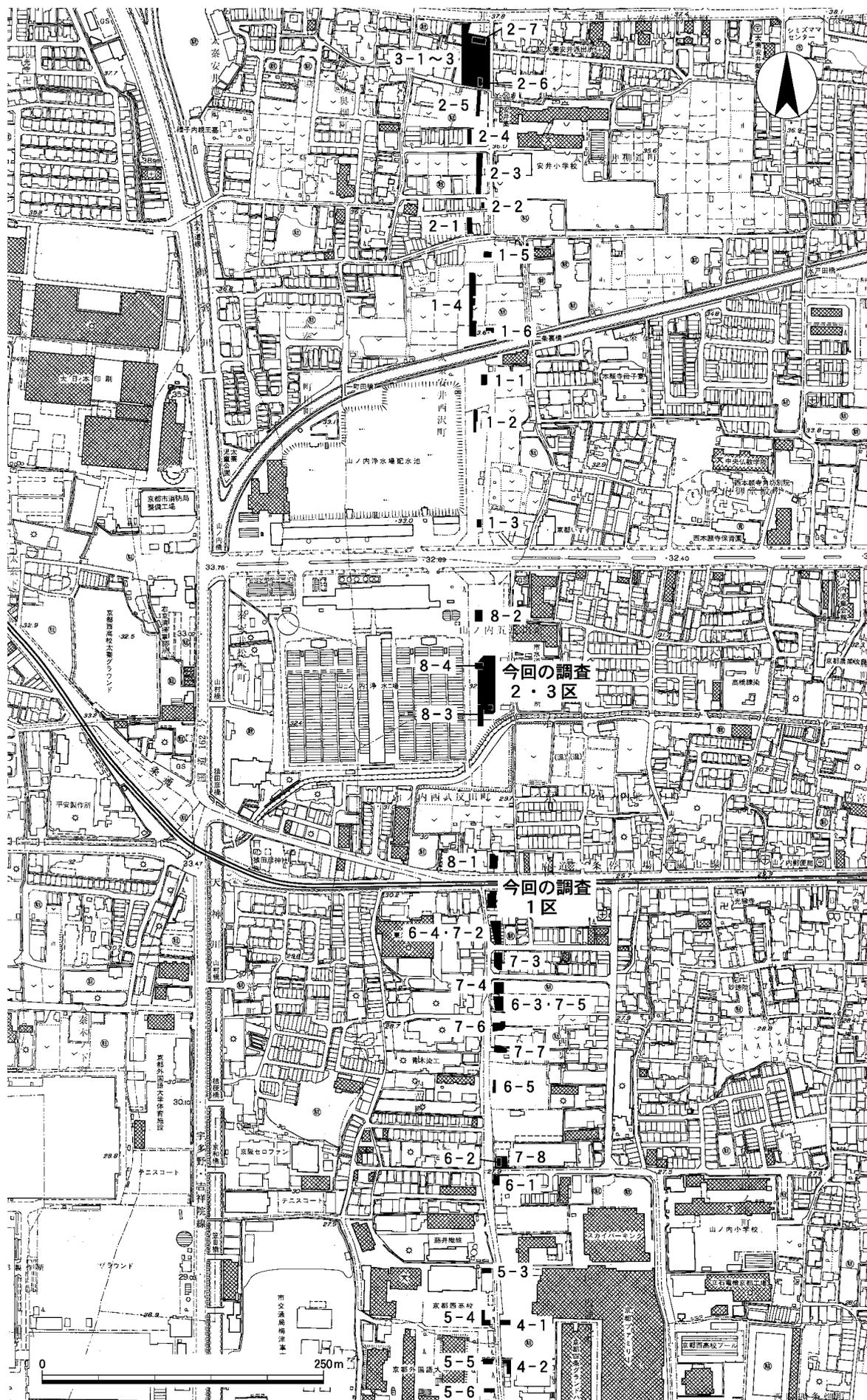


図1 調査位置図および周辺調査(1:5,000)

側溝を検出し、平安時代後期の遺構は、東西方向の堀または柵になるとと思われる柱穴を5基、平安時代末期から鎌倉時代、室町時代から江戸時代の遺構は、耕作溝が検出されている。³⁾

4次調査 室町時代後半の南北方向の壕と、それ以降の流路、江戸時代の耕作土層を検出した。この付近は室町時代の西院城跡に近接しているため、検出した濠が城に関係する可能性がある。⁴⁾

表1 周辺の調査一覧表

調査区	年度	調査法	条坊	主な遺構	
1次	1-1	1988	試掘	右京三条四坊十六町	古墳の自然流路、室町～江戸の耕作溝
	1-2	1988	試掘	右京三条四坊十六町、押小路	平安の押小路東西両側溝、室町～江戸の耕作溝
	1-3	1988	試掘	右京三条四坊十五町	室町～江戸の耕作溝
	1-4	1988	試掘	右京三条四坊十六町、二条大路	古墳の自然流路、平安の二条大路路面、室町～江戸の耕作溝
	1-5	1988	試掘	二条大路	古墳の自然流路、室町～江戸の耕作溝
	1-6	1988	試掘	右京三条四坊十六町	古墳の自然流路、室町～江戸の耕作溝
2次	2-1	1989	発掘	右京二条四坊十三町、二条大路	室町～江戸の耕作溝
	2-2	1989	発掘	右京二条四坊十三町	室町～江戸の耕作溝
	2-3	1989	発掘	右京二条四坊十三町	平安以前の足跡状遺構、室町～江戸の耕作溝
	2-4	1989	発掘	右京二条四坊十三町	平安以前の足跡状遺構、室町～江戸の耕作溝
	2-5	1989	発掘	右京二条四坊十三町、冷泉小路	平安以前の足跡状遺構、鎌倉の冷泉小路北側溝、室町～江戸の耕作溝
	2-6	1989	発掘	右京二条四坊十四町、冷泉小路	平安前～中期の冷泉小路北側溝・柱穴列、平安末期～鎌倉の土壇状遺構、室町～江戸の耕作溝
	2-7	1989	発掘	右京二条四坊十四町	古墳の土壇状遺構、平安以前の足跡状遺構、室町～江戸の耕作溝
3次	3-1～3	1991	発掘	右京二条四坊十四町、冷泉小路	平安前期の冷泉小路北側溝、平安後期の柱穴群・土壇、室町の耕作溝、江戸以降の溝・井戸・土壇・柱穴
4次	4-1	1995	試掘	右京四坊四条十三町、錦小路・無差小路交差点内	室町後半の濠、室町以降の流路、江戸以降の耕作溝
	4-2	1995	試掘	右京四坊四条十三町、無差小路	4-1と同じ
5次	5-3	1996	試掘	右京四条四坊十四町	古墳～室町後半の流路、室町後半の水田、江戸以降の水田
	5-4	1996	試掘	右京四条四坊十三町・十四町、錦小路	古墳～室町後半の流路、江戸以降の水田
	5-5	1996	試掘	右京四条四坊十三町	室町後半の土壇、江戸以降の水田
	5-6	1996	試掘	右京四条四坊十三町	室町後半の土壇、江戸以降の土壇・水田
6次	6-1	2000	試掘	右京四条四坊十四町	時期不明の流路
	6-2	2000	試掘	右京四条四坊十五町、無差小路・四条坊門小路交差点内	古墳の流路、平安前期の包含層
	6-3	2000	試掘	右京四条四坊十六町、無差小路	平安前期の無差小路西側溝・土壇、室町～江戸の耕作溝
	6-4	2000	試掘	右京四条四坊十六町、無差小路	平安の土壇、江戸以降の耕作溝
	6-5	2000	試掘	右京四条四坊十五町	平安の土器を含む湿地状堆積
7次	7-2	2001	発掘	右京四条四坊十六町、無差小路	古墳前期の包含層、平安前期の無差小路西側溝・建物跡2棟・土壇
	7-3	2001	発掘	右京四条四坊十六町、無差小路	古墳前期の包含層・水溜状遺構、平安前期の南北溝・流路状遺構、近世以降の耕作溝
	7-4	2001	発掘	右京四条四坊十六町、無差小路	平安前期の南北溝、近世以降の耕作溝・南北方向柵列
	7-5	2001	発掘	右京四条四坊十六町、無差小路	古墳前期の包含層、平安前期の南北溝・建物跡2棟・南北方向柵列、近世以降の杭列・耕作溝
	7-6	2001	発掘	六角小路・無差小路交差点内	近世～現代の溝・堀跡
	7-7	2001	発掘	右京四条四坊十五町、無差小路	平安前期の不明土壇、近世以降の耕作溝
	7-8	2001	発掘	右京四条四坊十五町、無差小路・四条坊門小路交差点内	古墳前期～中世以降の自然流路、平安前期の包含層
	8次	8-1	2001	発掘	右京三条四坊十三町、三条大路
8-2	2001	試掘	右京三条四坊十四町、姉小路	鎌倉～室町の耕作溝、室町の小穴	
8-3	2001	試掘	右京三条四坊十四町	平安の包含層、鎌倉～室町の耕作溝	
8-4	2001	試掘	右京三条四坊十四町	平安の溝・柱穴、鎌倉～室町の耕作溝	

5次調査 3・4区で古墳時代から室町時代の流路、5区では室町時代後半の土壌を検出した。全調査区で室町時代後半から江戸時代以降の耕作土層を検出した。6区で平安時代前期後半の包含層を検出し、遺物がまとまった状態で出土している⁵⁾。

6次調査 2区で古墳時代の流路と平安時代前期の遺物包含層を検出した。流路内から出土した土器類は、磨滅しておらず状態が良い。3区で平安時代の無差小路西側溝や良好な遺物を含む土壌などを検出した。4区では平安時代の土壌、江戸時代以降の耕作溝を検出した。5区では上層に平安時代の土器を含む湿地堆積層を検出した⁶⁾。

7次調査 6次調査である試掘の成果により実施した。2区からは古墳時代前期の遺物包含層を検出した。また平安時代前期の建物跡2棟、土壌、無差小路西側溝を検出した。3区は古墳時代前期の遺物包含層、水溜状遺構を検出した。平安時代前期では南北溝と流路状遺構を検出し、良好な遺物が出土した。また江戸時代以降の耕作溝も検出した。4区では5区で検出した南北溝の延長と柵列を検出した。5区は古墳時代前期の遺物包含層を地山直上で検出した。4区の延長の平安時代前期の南北溝、南北方向の柵列、建物跡2棟を検出した。南北溝からは炭と共に平安時代前期の遺物が多量に出土した。7区は平安時代前期の遺物を多量に含む不明遺構、近世以降の耕作溝を検出した。8区は古墳時代前期から中世の遺物を含む自然流路を検出した。古墳時代の遺物は良好な状態で出土した。その他、平安時代前期の遺物包含層を検出した。

8次調査 1区は遺構の性格は不明であるが、古墳時代前期の遺物を含む土壌状遺構の一部を検出した。また、平安時代前期の建物跡、平安時代の遺物を含む三条大路北側溝・路面を検出した。2～4区の試掘調査成果により今回の発掘調査が実施された。調査では、平安時代の遺物包含層、中世の溝を数条検出した。

註

- 1) 本 弥八郎「平安京右京三条四坊」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 2) 堀内明博「平安京右京二条四坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 3) 山本雅和「平安京右京二条四坊」『平成3年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 4) 上村憲章「平安京右京四条四坊」『平成6年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年
- 5) 上村憲章「平安京右京四条四坊」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1997年
- 6) 伊藤 潔「平安京右京四条四坊」『平成12年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2003年

3. 遺 構

(1) 1区

基本層序は表土下1.0～1.4mまで盛土・耕作土層で、以下、黒褐色砂泥の遺物包含層、浅黄色から黄褐色粘土層の地山となる。

調査区の大半は旧建物の基礎および地下構造物で攪乱を受けており、調査区中央部と北東部隅でのみ、若干の遺構および遺物包含層を検出した。

平安時代の遺構としては、土壌SK15、柱穴Pit28の2基を検出した。

SK15は一部分であるが、東西約2m、南北1mを確認し、埋土は灰黄褐色泥砂層と黒褐色砂泥層である。土壌としたが削平が著しいため、性格は不明である。遺物包含層の可能性もある。

Pit28は全体の1/4が残存しているだけであったが、柱当りが確認できた。

近世の遺構は、調査区中央部で土取穴9基を重複した状態で検出した。

(2) 2・3区

基本層序は、山ノ内浄水場建設時の盛土が2.2～2.7mあり、以下、耕作土層、黒褐色砂泥層、黄褐色砂泥層の地山となる。地山の標高は北端で30.5m、南端で30.0mである。

検出した遺構は、近代・近世（第1面）、中世（第2 - 1・2 - 2面）、平安時代以前（第3面）の4時期に分かれる。遺構の大半は、中世から近世の耕作に伴う南北および東西方向の小溝群である。

以下、主な遺構について概略する。

近代・近世（第1面） 東西方向の溝SD6と南北方向の溝SD9は、径10cmほどの竹筒を埋めた暗渠である。竹筒にはランダムに5cm四方の孔が穿たれている。SD6は竹筒の回りを拳大から20cm前後の石で覆っているが、SD9には石の覆いはなかった。東西方向のSD6に南北方向のSD9がT字状にとりつく。SD6の東西両端は調査区外へと延長されるため、全容は不明である。

中世（第2 - 1・2 - 2面） 検出した遺構面はおおむね、第2 - 1面が室町時代、第2 - 2面が鎌倉時代である。遺構は幅0.3～0.5m、深さ0.05～0.15mの耕作に伴う素掘り



図2 3区SD6・9交差部（北西から）

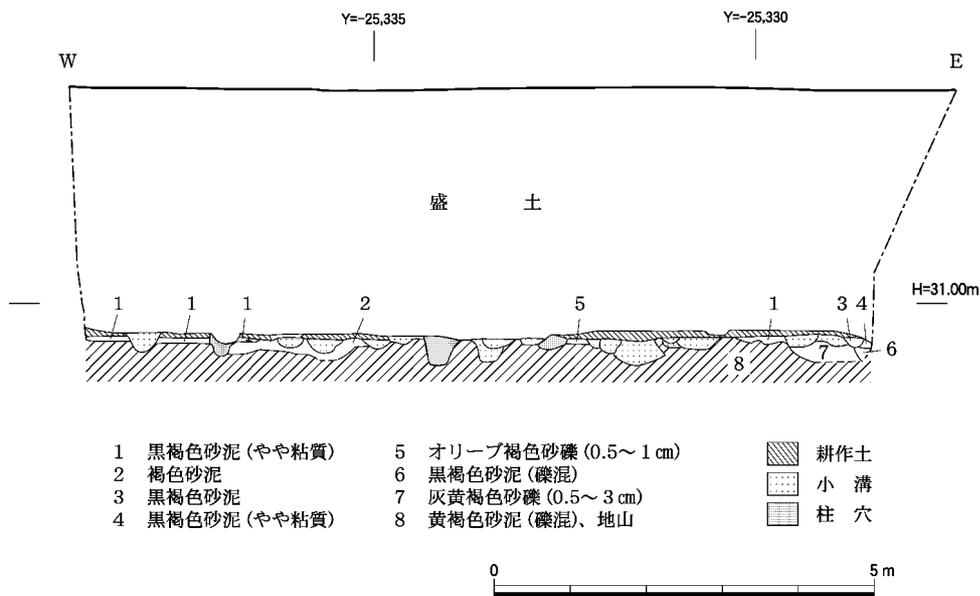


図3 3区北壁断面図(1:100)

の小溝群で、溝は重複している。ただ、50mに渡り検出した南北方向の溝SD80(第2-2面)は、幅1m、深さ0.2~0.3mと規模が他の溝より大きく、別の用途の溝と考えられる。

平安時代(第3面)北半部(3区)で径0.4~0.6mの円形、あるいは隅丸方形の柱穴を30基検出した。しかし大半が上部を削平されており、残存している深さは0.1~0.15mと浅く、そのため、建物としてはとらえられなかった。また、土器の出土も微量であった。

土壌SK102は遺構の一部分のみ検出できたもので、形状は確認できなかったが、溝になる可能性もある。古墳時代の土師器高杯が出土しているが混入したものであろう。

SX121は6×5mの隅丸形状の遺構であるが、遺物がほとんど出土せず、時期は確定できなかった。

表2 遺構概要表

時代	遺構		
	1区	2区	3区
近・現代	攪乱土壌	攪乱土壌	攪乱土壌
近世	土壌、溝、落込	溝	溝、土壌、小穴
中世	土壌、溝、柱穴	溝、土壌	溝、土壌
平安時代以前	土壌、柱穴	溝、土壌、土壌状遺構	柱穴、溝、土壌、土壌状遺構、不明遺構

4 . 遺 物

遺物は1～3区、合わせて整理箱に40箱出土した。出土遺物の時期は、弥生時代から江戸時代にわたる。土器類は土師器が大半である。瓦類は1区の棧瓦の他に平安時代の軒瓦が出土した。木製品も1区より1箱出土している。その他、石鏃が1点3区より出土している。特殊なものとして窯道具のトチンがある。

1区 弥生土器の甕が小片であるが出土した。

古墳時代の土器は、土師器（高杯）、須恵器（壺・甕・蓋）がある。須恵器では、体部に波状文が施されている壺が出土している。いずれも小片である。

平安時代の土器は、土師器（皿）と須恵器の小片が出土した。

鎌倉時代から室町時代の土器は、須恵器（鉢）、瓦器（鍋）の小片が出土した。

江戸時代の遺物は、土師器、焼締陶器、施釉陶器、染付磁器、伏見人形、棧瓦、木器が出土している。

2・3区 遺物の大半が中世以降の耕作溝からの出土である。遺物は、鎌倉時代から江戸時代のものが多数を占めるが、弥生時代、古墳時代、平安時代のものも少量含まれる。

石鏃と、弥生土器の甕の小片が、遺構精査中に出土している。

古墳時代の土器は、土師器高杯が2区のSK102、3区のSD95より出土しているが、混入したものであろう。遺構に伴うものではないが、須恵器（壺・甕・鉢・鉢・杯身・蓋）が出土している。

平安時代の土器類は、土師器（皿・甕）、須恵器（壺・甕）、器形の判別できない緑釉陶器、灰釉陶器が出土している。その他、布目瓦がある。

鎌倉時代から室町時代の土器類では、特記するものとして土師器・瓦器の小型羽釜が3点出土している。また、土師器（皿）、須恵器（鉢）、瓦器（椀・皿・鍋・羽釜・火舎）、輸入陶磁器（青磁、白磁椀）、焼締陶器（甕・鉢）などが出土した。土師器皿には灯明皿に用いたとみられる口縁部分に煤が付着したものがある。

江戸時代以降では、土師器（皿・焙烙）、染付磁器、施釉陶器（天目椀・おろし皿）、焼締陶器の搦鉢、棧瓦、泥面子などが出土した。

以下、図示した遺物について記述する。

(1) 土器類

須恵器鉢(1) 口径26.0cm、残存高4.5cm。口縁端部は外傾、端部は肥厚しない。1区出土。

土師器皿(2) 口径4.2cm、高さ1.6cm。口縁は短く立ち上がり端部は面をなす。底部は平坦。内外面ナデ調整、底部外面回転糸切り。1区出土。江戸時代。

土師器皿(3) 口径7.2cm、高さ1.2cm。平坦な底部に外反する口縁部がつき、端部は外へ開く。内面・口縁部外面はナデ調整、下半から底部は指オサエ痕が残る。2区、第2面出土。室町時代。

土師器皿(4) 口径7.0cm、高さ2.0cm。平坦な底部に外反する口縁部がつく。内面・口縁部外

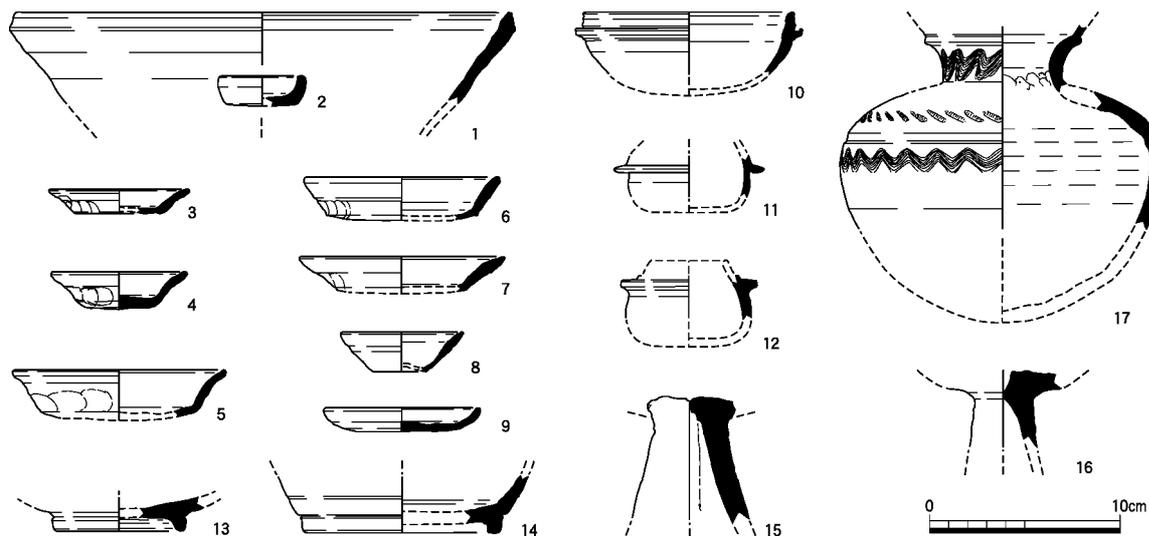


図4 土器実測図(1:4)

面はナデ調整、下半は指オサエ痕が残る。2区、第2面出土。室町時代。

土師器皿(5) 口径11.2cm、高さ2.5cm。口縁部は底部から外反し、端部は立ち上がる。内面・外面上部はナデ、外面下半は指オサエ痕が顕著に残る。2区、第2面出土。室町時代。

土師器皿(6) 口径10.2cm、高さ2.2cm。底部から外反する口縁部がつき、口縁端部内外面に煤が付着。内面、外面上半ナデ調整、下半は指オサエ痕が残る。2区、SD84出土。室町時代。

土師器皿(7) 口径10.6cm、高さ1.9cm。底部は欠損する。口縁は屈曲して外反し、端部はやや内側が肥厚する。内面端部・外面は横ナデ調整、外面下半は指オサエ後ナデ調整をする。2区、SD45出土。室町時代。

土師器皿(8) 口径6.4cm、高さ2.1cm。体部は外反し口縁端部は外へ開く。器壁は薄く、底部は欠損するがいわゆる「へそ皿」か。口縁端部は横ナデ、その他はナデ調整。2区、第2面出土。鎌倉時代後半。

土師器皿(9) 口径8.2cm、高さ1.9cm。口縁部はやや内弯し、端部は外上方へ開く。口縁端部内外面横ナデ、内面ナデ調整をする。2区、SD78出土。鎌倉時代後半。

土師器小型羽釜(10) 口径10.8cm、残高3.6cm。鏝の先端を上方へ折り曲げ、端部は面をもつ。口縁端部はやや外反し、体部は緩やかに弯曲する。内外面は丁寧なナデ調整をする。2区、第2面掘下げ中に出土。鎌倉時代から室町時代。

瓦器小型羽釜(11) 残高2.2cm。体部のみ。胎土に微細な雲母が含まれている。2区、SD74出土。鎌倉時代。

瓦器小型羽釜(12) 残高2.2cm。体部の一部のみ。内面、鏝部にミガキ。2区、第2面掘下げ中出土。鎌倉時代。

緑釉陶器(13) 底径6.6cm、残高1.8cm。底部のみ。断面隅丸方形の高台がつく。3区、遺構精査中に出土。平安時代。

須恵器杯(14) 口径10.2cm、残高3.0cm。底部のみ。断面方形の貼付け高台がつく。3区、第

2面に混入。平安時代。

土師器高杯(15) 残高6.4cm。高杯の脚部のみ。表面が磨滅して調整は不明。3区、SD95から出土したが、混入であろう。古墳時代。

土師器高杯(16) 脚部と杯部の差込み部分のみ。一部ナデ調整、その他は不明。2区、SK102から出土したが混入したものである。古墳時代。

須恵器大型(17) 体部径15.5cm、残高17cm。頸部から体部の一部のみ。やや肩部が張る丸い体部に外反する頸部がつく。頸部外面、体部外面に波状文と刺突文を施し、頸部外面には突帯がめぐる。内面ヘラ状工具のナデ、頸部内外面ともに横ナデ、体部外面肩部は横ナデ、胴部からはヘラケズリ。3区、第3面出土。古墳時代。

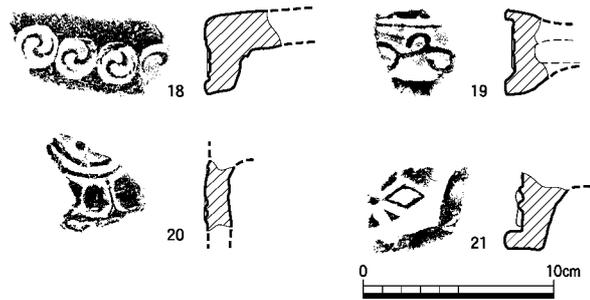


図5 軒瓦拓影・実測図(1:4)

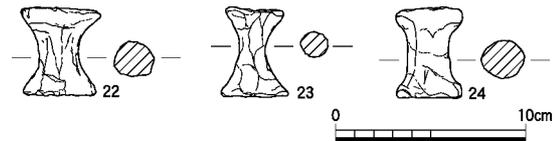


図6 2区出土トチン実測図(1:4)



図7 2区出土トチン

(2) 瓦類

連巴文軒平瓦(18) 右巻き二巴文を連続して配する。瓦頭部成形技法は折曲げ式。2区、第1面出土。平安時代後期。

偏行唐草文軒平瓦(19) 瓦当部成形技法は包み込み式である。2区、遺構精査中に出土。平安時代後期。

複弁蓮華文軒丸瓦(20) 瓦当部の一部のみ。詳細は不明である。3区、SD1に混入。平安時代後期。

花文軒平瓦(21) 瓦当部の一部のみであるが花菱文であろう。詳細は不明である。2区、遺構精査中に出土。中世。



図8 3区出土石鏃

(3) その他の遺物

トチン(22~24) 高さは22・23が4.6cm、24が4.7cmである。瓦質で形状はツツミ型をしており、型作りである。2区、第1面出土。近・現代。

石鏃(25) えぐりの深い凹基式の打製石鏃で、長さ2.7cm、幅2.0cm、重さ0.98gを測る。石質はサヌカイト製である。3区、遺構精査中に出土。

5.まとめ

1区は南に隣接する前年度の調査成果から、古墳時代の遺構や平安時代前期の建物跡などの発見が予想されたが、近世以降の土取りや現代に至る造成などによって、遺構面のほとんどが破壊されており、十分な成果を得ることができなかった。しかし、1基ではあるが平安時代の柱穴を検出できたことは、建物があった可能性を示唆している。

2・3区は周辺の調査同様、弥生時代から古墳時代の遺物が堆積土層中より出土しているが、明確な遺構は検出できなかった。さらに南への調査に期待する。

また、平安時代の柱穴跡を確認したが、残存状況が悪く、建物跡などを復元するには至らなかった。出土遺物も微量で、詳細な時期の決定もできなかったため、平安京の西端にあたるこの付近が、平安時代のどの時期に宅地として機能していたのかは明確にできない。平安時代末期の安元二年（1176）、橋元清という人物が僧明蓮に右京三条四坊にあった所有地の水田を売却したという記述があり、さらにその土地が三条坊門、西京極以東にあったとあるため、十四町もしくは十五町にあたる（『平安遺文』三七六四号）。この記述からみると平安時代末期にはすでに、この付近は耕作地であったことが窺える。

鎌倉時代・室町時代・近世の遺構面で検出した遺構は、大多数が耕作に伴う東西・南北方向の素掘りの小溝群である。御池通以北の既往調査でも、同様の遺構が多数検出されており、付近一帯が平安時代末期もしくはそれ以前から、昭和41年に浄水場が建設されるまで、耕作地として土地利用されつづけた経過が明らかになった。

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
弥生時代以前	石鏃、弥生土器	2箱	石鏃1点	0箱	2箱
古墳時代	土師器、須恵器	2箱	土師器2点、須恵器1点	0箱	2箱
平安時代	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、輸入陶磁器、瓦	4箱	須恵器1点、緑釉陶器1点、軒平瓦2点、軒丸瓦1点	1箱	2箱
鎌倉時代～室町時代	土師器、須恵器、瓦器、輸入陶磁器、焼締陶器	15箱	土師器8点、須恵器1点、瓦器2点、軒平瓦1点	3箱	12箱
江戸時代以降	土師器、焼締陶器、施釉陶器、磁器、染付、棧瓦、伏見人形、人形鋳型、泥面子、トチン、木製品	18箱	土師器1点、トチン3点	1箱	17箱
計		41箱	25点（1箱）	5箱	35箱

コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

圖 版

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうさんじょうしぼうじゅうよんちょう・しじょうしぼうじゅうろくちょうあと							
書名	平安京右京三条四坊十四町・四条四坊十六町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報							
シリーズ番号	2002-3							
編集者名	伊藤 潔・近藤章子							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2003年5月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょううきょう 平安京右京 さんじょうしぼう 三条四坊 じゅうよんちょう・ 十四町・ しじょうしぼう 四条四坊 じゅうろくちょうあと 十六町跡	きょうとしうきょうく 京都市右京区 やまのうちしうらちょう・ 山ノ内西裏町・ ごたんだちょう 五反田町	26100		(1区) 35度 00分 20秒 (2・3区) 35度 00分 24秒	135度 43分 21秒 135度 43分 20秒	2002年6月 25日～2002 年11月5日	830㎡	道路改築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
平安京右京 三条四坊 十四町・ 四条四坊 十六町跡	都城跡	平安時代 ～近・現代	溝・土壇・柱穴	土師器・須恵器・緑釉 陶器・灰釉陶器・瓦器 ・焼締陶器・施釉陶器 ・軒平瓦・軒丸瓦・平 瓦・石鏝・トチン				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-3

平安京右京三条四坊十四町・
四條四坊十六町跡

発行日 2003年5月31日

編集発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 075-256-0961